

「ITBやWTMと並ぶ世界有数の規模に TEJ2019は初めて大阪で開催へ」

ツーリズムEXPOジャパン（TEJ）実行委員会は6月6日、東京・霞が関の全日通霞が関ビルでTEJ2018と大阪で開催されるTEJ2019の概要発表会見を行いました。同実行委員会の委員長を務めるJATAの田川博己会長は、TEJ2018について、①展示会を昨年の3日間から4日間に拡大、②展示会でのテーマ別エリアを拡大してスポーツ・酒蔵・リゾートウェディングなどのテーマをアピール、③昨年に続き2回目となる観光大臣会合には国内の首長も参加、などのポイントを発表。TEJ2019については、首都圏以外での開催を通じて「観光」による交流拡大・経済の成長を全国に波及させることを目指す考えを強調しました。

昨年上回る19万5000人の 来場見込む

昨年について、一般消費者向けに「みつげよう。旅の『新しいカタチ』」、業界関係者向けに「創ろう。ツーリズムの『新しいカタチ』」というテーマを掲げるTEJ2018



概要発表会見後のフォトセッションに臨む日本政府観光局（JNTO）の清野智理理事長、日本観光振興協会の久保成人理事長、JATAの田川博己会長、大阪観光局の福島伸一会長と芳田隆常務理事（左から）

も実施され、初日に行われる基調講演には、いずれも就任後では初来日となる国連世界観光機関（UNWTO）のスラブ・ポロリカシユイリ事務局長と世界旅行ツーリズム協議会（WTTC）のグロリア・ゲバラ・ミンソブレシデント兼CEOが登壇します。昨年に続いて開催されるTEJ観光大臣会合には、20カ国の観光大臣などに加えて日本国内の複数自治体から首長も参加する予定で、より重層的かつ多角的な視点から議論が深められることも期待されています。

また、昨年までは3日間だった展示会期間を、一般来場者向けの展示会2日間と合わせて4日間に拡大し、会期中の来場者数は昨年の19万1500人を上回る19万5000人が見込まれています。

さらに、今年から展示会場すべてを商談会場として、ビジネス効果を最大限に引き出す欧米型の展示商談を2日間にわたって実施。事前に商談のアポイントメントを調整できる登録システムによって、より精度の高い効率的な商談が可能になるとともに、セラー数・バイヤー数、商談件数のいずれも上回る数となることから、TEJ実行委員会の田川委員長は、「ITBベルリンやWTMロンドンと並ぶ世界でも有数の規模を目指したい」と改めて決意を表明しました。

オール関西で大阪開催を サポート

TEJ2019は来年10月24日から27日

までの4日間にわたり、大阪・南港のインテックス大阪などで開催されます。

田川委員長は、首都圏以外で初めて開催されるTEJ2019について、「2019年のラグビーW杯や2020年の東京オリンピック・パラリンピックで世界から日本に注目が集まる機会に、地域でのTEJ開催を通じて観光による交流拡大や経済の成長を全国に波及させる」と説明しました。

すでに今年2月には、関西の経済界や空港会社、鉄道会社などの関係者で構成される「開催地連絡協議会」が発足しており、6月6日の概要発表会見には、大阪観光局長を務める大阪国際会議場の福島伸一代表取締役社長も出席し、「TEJ2019の誘致に向けて、オール大阪で取り組んできた」と強調。「大阪関西では、来年6月のG20サミットをはじめ、大阪と神戸でのラグビーW杯の試合開催、2021年のアジアでは初めてのワールドマスターズゲームズ2021関西など、国際的なイベントや大型プロジェクトが目白押しで予定されており、TEJ2019はこうした機運を加速させるシナジー効果をもたらすものとして期待される」と語り、「イベントが成功するよう『オール関西』で最大限のサポートをしたい」と意欲を示しています。

※「インバウンド・観光ビジネス総合展2018」の関連記事は次号掲載予定です。

は、今年9月20日から23日までの4日間にわたって、東京有明の東京ビッグサイトと東京コンファレンスセンター有明で開催されます。期間中には、JATAと日本観光振興協会（JTTA）とともにTEJの主催者として名前を連ねる日本政府観光局（JNTO）が「VISIT JAPAN Travel & ICM」が「VISIT JAPAN Travel & ICM」を主催するほか、TEJと日本経済新聞社の共催による「インバウンド・観光ビジネス総合展」も計画されています。

TEJ2018では「観光で地方創生を」をテーマに掲げるフォーラム&セミナー



TEJ2018 広報アンバサダーに任命された「2018ミス日本みどりの女神」の竹川智世さん